



ここも自分の家だと 子どもたちが 安心できるように

バーンテープ保育園
園長先生
ジムさん

「マレットファンの周りの輝く人」第2回。倉庫街にある小さな保育園で長年園長先生をつとめるジムさんを訪ねました。



バンコク中心部、港に近い倉庫街にあるスワンオイ地区。住んでいる人の多くは建設現場や港や屋台などで日雇いの仕事をしています。一本だけあるメインストリートには小さな家々が軒を連ねていますが、その横に広がる何本もの小さな路地には、水たまりの上の簡素な小屋や日の射さない部屋などがひしめきあっています。

その一角から子どもたちの元気な声が聞こえてきました。地区の子どもたちが通うバーンテープ保育園です。おじやますると、白いシャツに赤のパンツやスカートをはいた子どもたちがちょっと恥ずかしそうに迎えてくれました。ちょうど午前中のおやつ時間。キリスト教式のお祈りをしてから、先生が配るグアバをみんなモグモグとほおばっていました。

子どもの持っている力を伸ばしたい

教室4つだけの2階建ての保育園を案内して下さったのが園長先生のがジムさんです。年齢の小さな子どもたちの教室に行くと、みんなジムさんに抱きついてきます。ジムさんは一人ひとりを優しく抱きしめて、頭をなでながら声をかけてあげていました。

教師をしていたキリスト教系の学校から派遣されて、ジムさんがここに赴任してきたのは今から約25年前。保育園は朽ちた木を寄せ集めたような今にも倒れそうな建物でした。保護者に働きかけて少しずつ資金を募り、改修に必要な材料や道具を集めてもらい、いらなくなったものをもらったりして、保育園の環境を整える。それがジムさんがまず取り組んだ仕事でした。



スワンオイ地区の表通り沿いに描かれたかわいい壁画がバーンテープ保育園の目印。隣にはタイの神様を祀った祭壇があります。間の路地に入っていきます。



保育園の中もカラフル。小さな保育園はスペースをフル活用。この教室は昼食後、お昼寝の部屋に。保育園はおやつ、昼ごはん、ミルクを提供。子どもの栄養面もサポートします。